

人権問題学習シリーズ②④

【いのちの花】

今回も引き続き、全国人権・同和教育研究集会での発表の中から影絵の取り組み「いのちの花」のあらすじを紹介します。

時は1800年代(江戸時代)、所は筑前(今の福岡市)で実際にあった話です。当時、「きつねくず葉」という大人気の芝居があり、毎日満員の観客でした。

そんな中、酒に酔った侍が、「何だ!何だ!今日の芝居は、へたくそだ、全然おもしろくないぞ、止めてしまえ・・・」と暴れ出しました。この様子を見かねた町の5人の若者が侍を止めに入り、侍を袋だたきにしてみました。この話はあっという間に町中に広まりました。

この事件で町奉行所では「町人から侮辱された」と聞いたが、それでは武士の面目が立たないではないか。「暴れた侍には切腹を言い渡せ!そして、犯人を何としても捕まえろ」などと処罰についての話し合いを続けました。

でも犯人はだれか分かりません。奉行所は芝居を見に行っているはずもない村の人の中から犯人を出すことにしました。役人は村に出かけ村長を呼びだして、「犯人はお前たちの村の者じゃ。5人の若者を差し出さなければ村中みんな焼き払ってしまうぞ」と命じました。

村人の言い分は奉行所には通じず、村人たちの肝のちぎれるような話し合いが何日も何日も続きました。

1人の若者が「自分が身代わりになる」と申し出ました。すると他の4人も身代わりになると言いました。一番上が20歳、一番下が14歳という若さでした。

「おらの命で村が救われるなら、おらは喜んで命を差しだそう。おっ父、おっ母、悲しんでくれるな。おらはおっ父おっ母を守ることが出来て本当に嬉しいんだから」と家族に言う弥吉。

「弟たちよ、おらの分までおっ父、おっ母を大切にしてくれ。おらはいつでもお前たちを見守っている。頼んだぞ。」と豊助。

「この村は俺たちが生きてきたことの証、どんなに辛くても、どんなに厳しい差別があっても耐え抜いてくれ。そしていつかは俺たちのような辛い思いをする者がいなくなるような世の中にしてくれ」と与右衛門。

「おっ父から『村を救う門出じゃけん』って、前髪落としてもろうた。『よかあ若衆になった』というてみんなに祝うてもろうた。髪を結うおっ母の涙がぼとぼと止まらんやった」と仲間に話す次八。

処刑の日、玉のような命が5つ消えた。村の土手には咲き遅れの彼岸花が一面に赤い花を付けていた。

後、村人は、毎年咲かせるこの花を「村を救った5人の若者のいのちの花」として語りついでたという。

4月 中央公民館同好会行事予定

日	曜日	行 事 名	時 間
1	土	ちぎり絵同好会	13:00
		花雪おどり同好会	20:00
3	月	岩美龍神太鼓	19:00
4	火	カラオケ教室	18:00
5	水	詩吟同好会	19:30
6	木	岩美龍神太鼓	19:30
		英会話サークル	19:30
7	金	手話サークル	20:00
10	月	岩美龍神太鼓	19:30
11	火	手あみ同好会	9:00
		折り紙同好会	13:00
12	水	詩吟同好会	19:30
13	木	琴同好会	12:00
		岩美川柳会	13:00
		岩美龍神太鼓	19:30
		英会話サークル	19:30
14	金	いわみコーラス	19:30
17	月	岩美龍神太鼓	19:30
18	火	カラオケ教室	20:00
19	水	松かさ短歌会	13:00
		いわみ句会	13:00
		詩吟同好会	19:30
		花雪おどり同好会	20:00
20	木	料理サークル	9:30
		岩美龍神太鼓	19:30
		英会話サークル	19:30
21	金	手話サークル	20:00
24	月	岩美龍神太鼓	19:30
25	火	手あみ同好会	9:00
		カラオケ教室	20:00
27	木	琴同好会	12:00
		岩美龍神太鼓	19:30
		英会話サークル	19:30
28	金	いわみコーラス	19:30

“女と男のつどい”に参加して

浦富在住 福本照美さんからの便り

2月19日(日)男女共同参画のすすめ ～いきいきと生きるために～ と題して、鳥取短期大学学長 山田修平先生の講演を聞きました。

小学生の子ども達から来た質問から始まり、男女共同参画の基本法律、男女の性差、人間としての自立、どうして男女共同参画が必要なのか等先生の実践や、体験談を織り交ぜながらのものでした。合間には、堅苦しい雰囲気をとるため、参加している人全員で簡単なふれあいを楽しませてくださるなど、あっという間の2時間に感じました。

先生の講演の中で、何が今大切なのか。性別、年齢に関係なく一人ひとりが人間として力をつける事。そのためには、「一人の人間として自立する」「家庭、職場、地域の中で自分が思うようにバランス良く選択する」それが、男女共同参画のキーワードだと話しておられました。

自立、選択をキーワードとして自分自身を先生の言っておられた5つのH、

Head(専門知識)、Hand(専門技術)、Heart(心)、Health(健康)、Hope(希望、夢)

にあてはめ、考えた時、ごく普通のことでも出来てない事ばかりでした。

この講演を機会に、一つでも、自分にできることを着実に実践していきたいと思いました。